

戦争を繰り返さない 北日本新聞八月十五

日社会面 戸出中学校三年前田捺那

この記事を読んで戦争はとてもこわく悲しいものなのだと改めて感じました。戦争に行っていなくとも常におびえながら生きないといけないのでと思いました。

疎開した綿引さんをふくめたくさんの子供が肉親と別れて生活していたのだと分かり、それだけ空襲の被害が大きかったのだと思いました。私が一番衝撃を受けたのは、絵の具

を食べていたということです。絵の具は普普通ら絶対に食べません。その絵の具さえおいしくて甘いと感じるということはよっぽど空腹だったのだと思いました。絵の具がおいしいと感じるのはおいしいものが食べられずにいたのだと思い出しました。

お父さんに召集状が届いて出征の日に頭をなでてくれたときこれが最後になると直感しました。お母さんはとてもつらかっただろうと思いまして。お母さんは防空演習で体調を崩し病

死しているのでお父さんがたつた一人の肉親だつたのに、その大切なお父さんにもう会えないと思うと悲しみや苦しみでいっぱいだつたと思いました。この時代のこの国に生まれたことを強く恨んだのは、決して綿引さんだけではなく大勢の人が思つたと思します。受けたとき信じたくなかったんだろうと思います。硫黄島は特に戦死者が多く、0に近いくらいの人しか生き残れなかつた場所です。ど

れほど多くの人が日本に残してきた家族のことを思いながら七くなつていかれたことでしょう。

綿引さんは東京を離れ行く当てもなく何となく向かつた鹿児島で保護されたのは、まさしく奇跡だと思います。戦争孤児で亡くなつた子供もたくさんいる中保護されたのは幸運なつたと思ひました。でも戦争が終わつても心の傷たゞは消えることはありません。綿引さんはすと心に傷を負つたまま生きてきたのだと思ひ

ます。生き残った人は苦しみながら生きないといけないのです。戦争は生き残っても死んでもつらいのだと思いました。

戦争は大切な人やものを見う最悪なものだと思いません。戦争は家族や夢や将来などを奪いそして苦しめるものだと思いません。

私たちに戦争を経験していません。戦争が実際にどんなもののなか知りません。戦争がもう二度とおこらないことを願います。

この記事を読み戦争について改めて考えま

した。戦争はたった六十九年前のことです。六十一年前には本当にあつたことなのだと思うととても身近に感じられました。戦争は遠い日の出来事ではないのです。戦争は繰り返してはいけないます。

